

平成19年9月3日

(財) 環日本海環境協力センター

「13th INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON TOXICITY ASSESSMENT (ISTA13 : 第13回毒性評価国際シンポジウム)」開催結果について

《要旨》

平成19年8月19日(日)から24日(金)までの6日間にわたって、『富山県民会館(富山市)』で(財)環日本海環境協力センター(以下「NPEC」とする)が共催する“13th INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON TOXICITY ASSESSMENT (ISTA13 : 第13回毒性評価国際シンポジウム(主催: ISTA13実行委員会))”が開催されました。

同シンポジウムには、大学・政府関係者を中心に、世界21カ国から145名(日本99名、海外46名)の研究者等が参加し、ISTA国際調整委員会のイアン・ファルコナー博士が「環境中の毒性をどのように評価するか: 毒性評価国際シンポジウムの発展」及びISTA国際調整委員会のクリスチャン・ブレイズ博士が「環境毒性学の2つの柱 バイオアッセイとバイオマーカー: 過去、現在、そして未来の活用について」と題して、それぞれ基調講演を行いました。

引き続き、特別セッションでは「北西太平洋地域におけるバイオアッセイと沿岸環境管理」(座長: 小山次朗(日本)、ドリス・W・T・アウ(中国))をテーマとし、北西太平洋地域での最新のバイオアッセイ研究事例について紹介されました。その後、開催期間中には小規模バイオアッセイの開発から近年話題となっているナノ粒子の影響まで、幅広い話題を含む10セッションの口頭発表やポスター発表などが行われた。

参加者からは海洋環境モニタリングへのバイオアッセイ導入について様々な視点・分野での課題や意見等が活発にだされ、今後のバイオアッセイ関連の研究の一層の推進に向けて、国際的な連携・協力体制の重要性などが参加者の間で共有されました。

【第13回毒性評価国際シンポジウムの概要】

- 日程 平成19年8月19日(日)～24日(金)
- 会場 『富山県民会館』 <http://www.kenminkaikan.com/>
住所: 富山市新総曲輪4番18号 TEL: 076-432-3111
- 主催 ISTA13 実行委員会(委員長 富山県立大学教授 楠井隆史)
- 共催 財団法人環日本海環境協力センター(NPEC)
- 後援 富山県立大学、富山大学、環境省、富山県、富山市、日本環境毒性学会、日本水環境学会、日本水産学会、環境ホム学会
- 参加者 国内外の学識者及び関係機関の研究者等 約150名
- 使用言語 英語
- シンポジウムの内容
 - (1) 開会式・来賓挨拶
 - (2) 基調講演・特別講演
 - (3) セッション内容: 10セッション、67題の口頭発表
 - 汚染物質の影響を測定する新規小規模試験
 - 遺伝毒性/変異原性/免疫毒性
 - 生物分解とバイオレメディエーション
 - バイオマーカーとバイオセンサー
 - (小規模)生物試験の水圏、土壌圏への適用

(化学物質、飲料水、表流水、地下水、海水、排水、浸出水、底質、土壌、固形廃棄物)

- リスク/ハザード評価
- ホットスポットと突発的流出事故
- 排水毒性
- オンライン毒性モニタリング など

(4) ポスターセッション：63題

(5) 全体スケジュール

【19日(日)】プレワークショップ

【20日(月)】開会式、研究発表&意見交換(口頭、ポスター)

【21日(火)】研究発表&意見交換(口頭、ポスター)

【22日(水)】エクスカージョン(終日)

【23日(木)】研究発表&意見交換(口頭、ポスター)

【24日(金)】研究発表&意見交換(口頭、ポスター)、閉会式および優秀発表者の表彰



写真1 参加者記念撮影



写真2 開会挨拶(楠井実行委員会委員長)



写真3 口頭発表



写真4 鈴木基之NPEC理事長歓迎挨拶

※詳細については別添のとおり

<発表内容問合せ先>

富山県立大学短期大学部環境システム工学科 楠井 隆史

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

Tel: 0766-56-7500 Fax: 0766-56-0396

E-mail: kusui@pu-toyama.ac.jp